



勝連城跡周辺文化観光施設基本計画 概要版



勝連城跡周辺文化観光施設基本計画

発行：うるま市
沖縄県うるま市みどり町1丁目1番1号
<http://www.city.uruma.lg.jp/>
編集：都市建設部 都市政策課
TEL：098-923-7606（直通）
FAX：098-923-7604

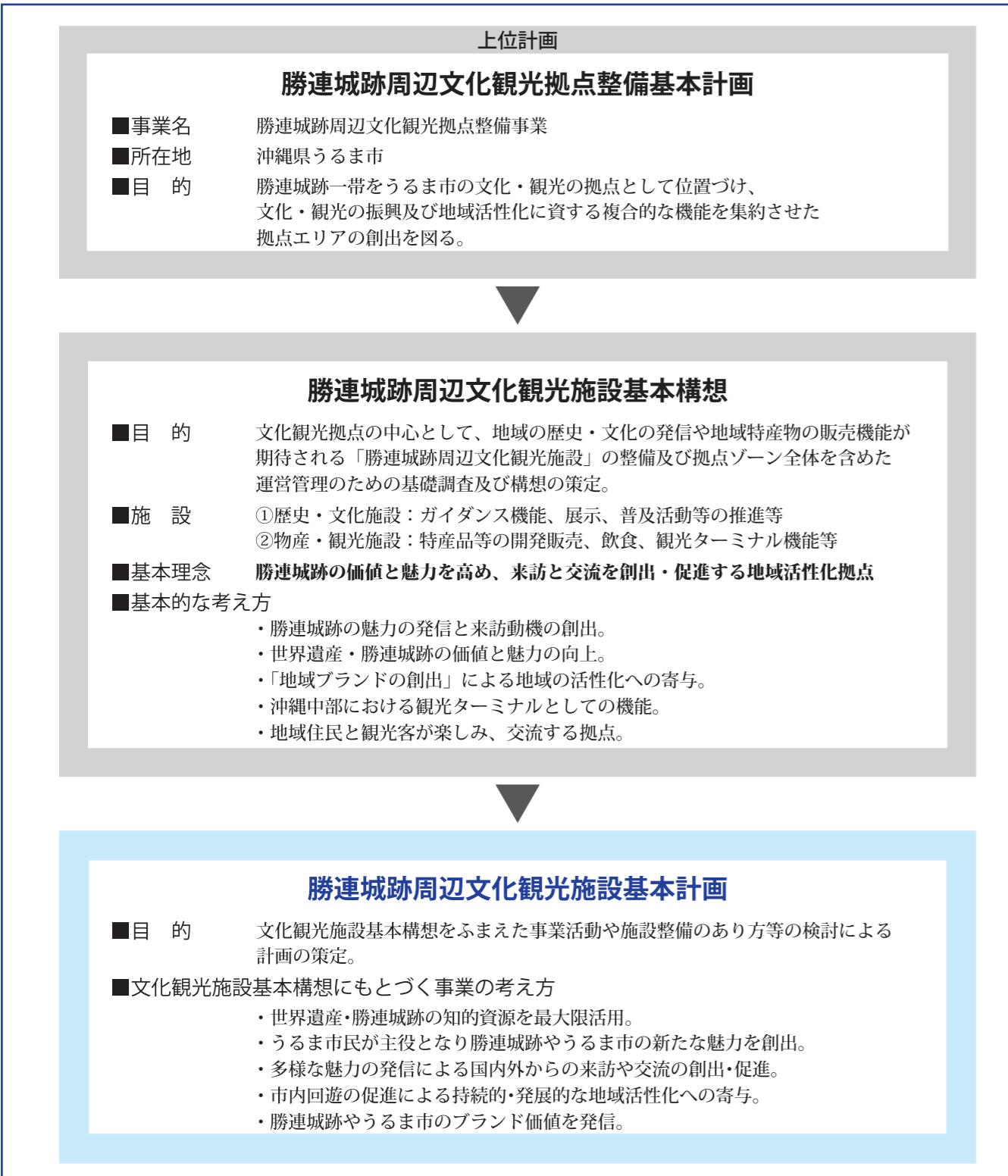
平成29年3月

うるま市 都市建設部 都市政策課

1. 事業の位置づけ

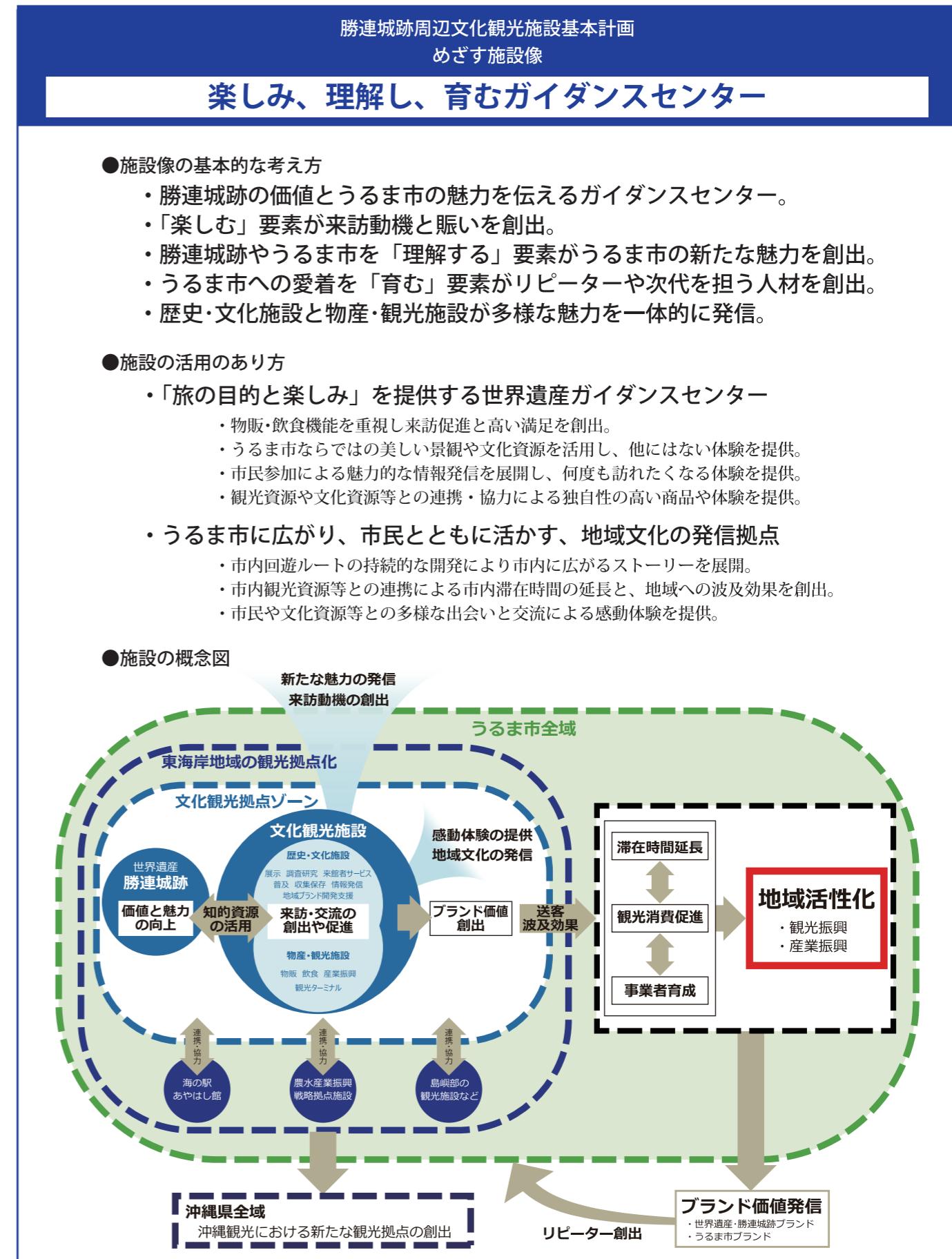
うるま市では、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして、ユネスコの世界遺産に登録された勝連城跡及びその周辺地域一帯において、文化・観光の振興をとおして地域活性化等に資する複合的な機能を集約させた拠点ゾーンの創出をめざし、整備・活用の検討を進めています。

「勝連城跡周辺文化観光施設基本計画」(以下、「文化観光施設基本計画」とします。)は、「勝連城跡周辺文化観光施設基本構想」(以下、「文化観光施設基本構想」とします。)における基本的な考え方をふまえ、その具体的な整備のあり方についてまとめたものです。



2. 文化観光施設のめざす施設像

うるま市全域に広がる地域活性化を図るために、以下のような施設像をめざします。



3. 事業活動の基本的な考え方と展開案

文化観光施設では以下の基本的な考え方にもとづき、①歴史・文化施設、②物産・観光施設それぞれの特色を活かした事業活動を展開します。

①歴史・文化施設の事業活動

- ・勝連城跡の価値と魅力を高め、地域活性化につながる取り組みを展開する。
- ・うるま市のガイダンスセンターとして市内の文化資源に関する情報を発信する。

展示

■基本的な考え方

- ・わかりやすく興味を掻き立てるようなストーリー性のある展示。
- ・勝連城跡に最初に出会う場として「楽しく」「わかりやすく」を重視する展示。
- ・施設内外で展開する柔軟な活動とともに、勝連城跡の見学へと導く展示。
- ・勝連城跡の価値や地域文化の継承につながり、郷土への愛情や誇り、うるま市への関心を育む展示。

＜展示のメインテーマ＞

「世界遺産・勝連城跡への扉」

「おもろさうし」等に描かれる阿麻和利像を効果的に活用しながら、勝連城跡の歴史や価値をドラマティックに紹介する。

また、阿麻和利に象徴される「肝高のこころ」を今に伝える取り組みや、「うるま」という地名が印象的に伝える美しい自然など、勝連や琉球王国の文化が息づく多様な地域資源を、うるま市が誇る魅力として紹介する。

＜展示テーマ構成＞

- | | |
|----------------|------------------------|
| ・「おもろさうし」と勝連城跡 | ・世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」 |
| ・世界遺産・勝連城跡 | ・琉球王国 |
| ・群雄割拠の時代と阿麻和利 | ・阿麻和利像 |
| ・珊瑚の島 | ・肝高のこころ |
| ・勝連城シアター | |



普及

■基本的な考え方

- ・利用者の年齢や関心、滞在時間をふまえた多様なプログラムを展開。
- ・文化プログラムの定期開催による豊かな体験を提供。
- ・勝連城跡を拠点とし、うるま市内外に広がる回遊ルートを創出。
- ・対話をとおして勝連城跡のストーリーを紹介。
- ・市内教育機関との連携による次代のうるま市を担う人材の育成。
- ・利用者ニーズに合わせて勝連城跡やうるま市に関する情報を提供できる人材の育成。

＜展開案＞ 展示ガイド／講座・レクチャー／勝連城跡ガイドツアー／外国語対応ガイド／子どもによる勝連城跡ガイド／勝連城跡や阿麻和利をテーマとする文化活動の上演／歴史探訪プログラム「まちまーい」／世界遺産周遊ルート／教育連携プログラム／人材育成プログラム／肝高っこプログラム

情報発信

■基本的な考え方

- ・映像コンテンツを効果的に活用。
- ・来館者自身の情報端末を活用した利便性の高い情報システムを構築。
- ・市内の回遊促進につながる情報を発信。

＜展開案＞ 世界遺産コンシェルジュ／多言語解説アプリケーション開発／公式ホームページ、ブログ、SNSの開設・運用／広報、PRの展開／市内周遊アプリケーション開発

※SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（social networking service）の略称。人と人の交流を促進し、社会的ネットワークを構築するWEBサイトのこと。

※アプリケーション：アプリケーションソフトウェア(application software)の略称。特定の目的のために使用されるソフトウェアのこと。

調査研究

■基本的な考え方

- ・勝連城跡の価値向上と理解促進につながる研究。
- ・「琉球王国のグスク及び関連遺産群」関連施設等との連携による調査研究を推進。

＜展開案＞ 世界遺産コンシェルジュ／発掘調査・復元プロジェクトの公開／関連機関等との協働調査研究の展開／文化資源データベースの構築による地域資源の活用環境の整備／発掘資料のデジタルアーカイブ化による情報公開

収集保存

■基本的な考え方

- ・展示と普及、情報発信に事業活動の重点をおいたガイダンスセンターとして、館内の展示に供するもののための収蔵庫を設置。

来館者サービス

■基本的な考え方

- ・来館者が豊かな時間を過ごすための快適なサービスを提供。
- ・飲食・物販機能は物産・観光施設で展開。

＜展開案＞ インフォメーション／発券／多言語対応／バリアフリー対応／ユニバーサル対応／便益施設の設置

地域ブランドの開発支援

■基本的な考え方

- ・物産・観光施設と連携し、付加価値の高いサービスを提供。
- ・勝連城跡や市内文化資源に関する情報を活用し、市内回遊ルートを創出。
- ・勝連城跡や周辺の自然景観を活かした野外イベント等の展開。

＜展開案＞ 地域ブランドを活かした商品やメニューの開発企画／市内回遊ルートの開発／屋外を活かしたイベントの企画

②物産・観光施設の事業活動

- ・物販・飲食事業を重視し、「楽しみ」をとおした体験を提供する。
- ・歴史・文化施設と物産・観光施設が連携し感動体験を提供する。
- ・産業振興機能を重視し、勝連城跡のブランド価値を活かした商品を開発する。
- ・観光ターミナル機能を設け、島嶼部を含むうるま市全域への波及効果の創出を目的とした事業を展開する。

物販事業

■基本的な考え方

- ・勝連城跡やうるま市の魅力を「楽しい」思い出とともに共有できる商品の提供。
 - ・楽しみの体験を思い出として持ち帰ることのできる商品を提供。
 - ・世界遺産・勝連城跡の価値や魅力を印象づける商品を提供。
- ・既存施設とのすみ分けを考慮したオリジナル商品の提供。
 - ・観光客をメインターゲットとし、勝連城跡やうるま市、沖縄県の文化を感じさせる商品を提供。
- ・産業振興事業との連携。
 - ・市内の産業振興に寄与しながら独自性の高い商品を開発。
- ・事業の計画性や効率性をふまえた商品展開。
 - ・販売商品の絞り込みによる、効率的・効果的な運用。



飲食事業

■基本的な考え方

- ・旅の目的の一つとなる、その土地ならではの食の体験。
 - ・既存施設等との連携による、その土地ならではの「食」の体験の提供。
- ・歴史や文化を活かした付加価値の高い食の提供。
 - ・勝連城跡やその歴史的背景を想起させる「食」の体験の提供。
- ・事業の計画性や効率性をふまえた商品展開。
 - ・昼食や喫茶利用を中心としたメニューへの絞り込みによる、効率的・効果的な運用。

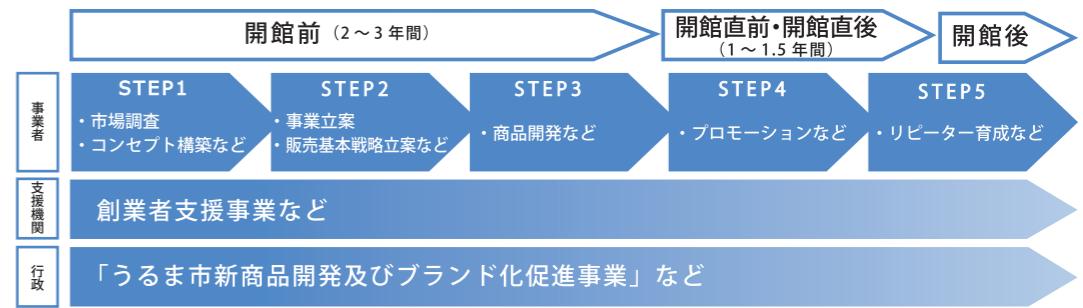


産業振興事業

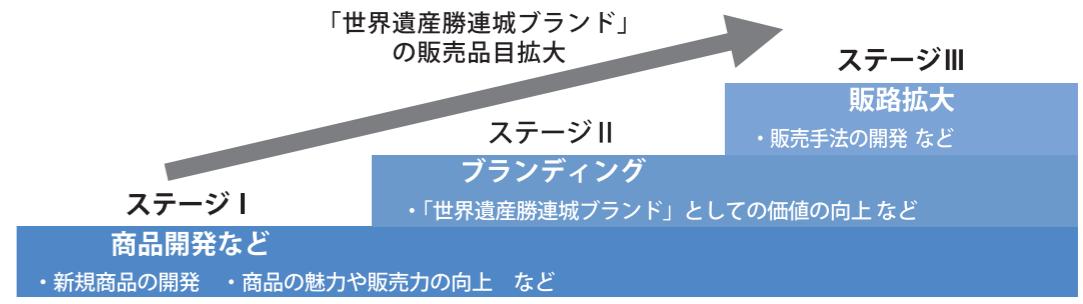
■基本的な考え方

- ・地域振興に寄与する人材育成支援及び販売促進支援。
 - ・独自性のある商品の開発や、それに必要な人材の育成を目的とする産業振興事業の展開。
- ・行政や支援機関との連携による商品開発。
 - ・開館前から事業者や行政、支援機関等が密接な連携を図りながら商品開発を展開。
 - ・段階的に事業主体を民間事業者へ移行。

■事業展開のステップ例



■開館後の展開イメージ

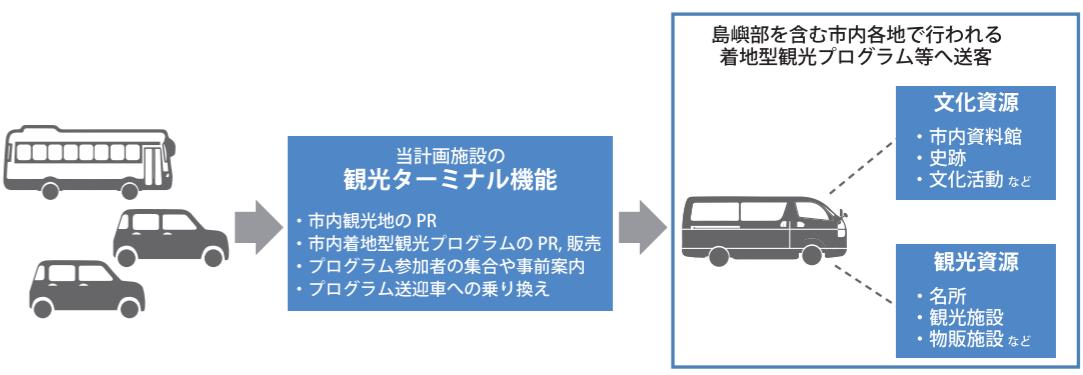


観光ターミナル事業

■基本的な考え方

- ・来訪者をうるま市内全域へ送り出すポンプ機能を重視した観光ターミナル。
 - ・文化観光施設への来訪者を市内各地へ送客。
 - ・うるま市全体での観光振興や経済振興に寄与。
 - ・うるま市の観光拠点の一つとして、市内の観光地や観光プログラムの紹介等を展開。
- ・中部東海岸地域全体を視野に入れた観光誘客。
 - ・近隣自治体との連携・協力を活用し、中部東海岸地域全体を視野に入れた観光誘客の展開。
- ・官民連携による持続的・発展的な推進体制の構築。
 - ・行政や支援機関等との密接な連携による事業の推進。

■観光ターミナル機能の展開例



4. 整備イメージ

【歴史・文化施設】



歴史・文化施設のエントランスから館内を望む。
(展示室壁面はイメージを伝えるため、ここではあえて透明に表現しています)

【物産・観光施設】



物産・観光施設を利用してパーティを行っているイメージ。

文化観光施設



【歴史・文化施設】



勝連城シアターのイメージ。

【物産・観光施設】



物産・観光施設のショップと憩いの空間のイメージ。

5. イメージパース



上空より「勝連城跡周辺文化観光拠点エリア」の全景を望む。



ももと池より勝連城跡を望む。



勝連城跡の頂上より「勝連城跡周辺文化観光拠点エリア」を望む。

6. 事業スケジュール

※段階的整備となります。

